

広報

やすらぎ

No.112 令和4年9月15日発行

太鼓の響きに気分高揚

ぶなの園夏祭りを開催



3年ぶりの盛大な夏祭り開催を期待した春でしたが、7月にまたコロナ新規感染者が増え始め、ご家族や地域の皆さんへのご案内は断念。それでも雰囲気は味わってほしいと、8月5日に中庭や食堂を会場に夏祭りを開催しました。祭りに欠かせない定番の模擬店でフード、ドリンクを提供し、シヨートステイやデイサービス利用者の皆さんにも楽しんでいただいています。より雰囲気を出すために甚平や浴衣を着て参加した職員もあり、特にも鮮やかな浴衣姿の技能実習生二人は利用者さんに大人気。記念撮影のご指名殺到でした。後半は施設内でさんさ踊りと抽選



フランクフルトを1つ!



浴衣美人と記念撮影

会、さんさの唄い手は入所者の佐々木芳子さんが担当してくださいました。唄と太鼓に合わせ、気持ちよく踊りながら施設全体をぐるっと回っています。そして抽選会では多くの方に豪華景品が当たり、最後の施設長賞をゲットしたのは張りきってさんさを唄ってくださいました佐々木芳子さん。クジ運もお見事でした。以前のような賑やかな夏祭りが来年こそはきつと開催できる、利用者も職員もそう信じております。



沢内さんさでテンションはMAXに!!



唄い手の佐々木芳子さん

めざすは介護福祉士

今年度、在宅福祉課では2名の職員が国家資格の「介護福祉士」を受験予定。介護とは無縁の職場から転職した方も、先輩方の指導を受けながら現場で汗を流し、気付けば実務経験3年以上という受験資格要件をクリア。毎日の仕事の中で、利用者さんのお話に笑わせてもらったり、昔ながらの知恵をいただいたり。仕事から学ぶ事も多いけれど、日々の業務に追われる事の方が多く、試験勉強となるとなかなか思うようにはかどりませんが…。知識を取り入れながら、これからも安全な介護業務の提供を心掛けていきます。

ディサービスぶなの園



ミーティングでしっかりと情報共有

久しぶりの綿あめの味

8月19日と20日の二日間、かたくりの園で納涼大会を開催しました。コロナ禍で各地区のお祭りが中止になる年が続くなか、少しでも夏祭り気分を味わってほしいという思いで企画しており、かたくりの園としては3回目の実施となります。模擬店の綿あめなどは「ここでしか食べられない」、「何十年ぶりに食べた」などの感想が聞けました。また、お祭り自体にも「孫が大きくなってからは行ったことがない」と話す方が意外と多く、「久しぶりの祭りで、盆踊りも盛り上がり楽しかった」と喜んでいただきました。

ディサービスかたくりの園



トウモロコシや綿あめを味わう利用者

■10月から75歳以上の医療費窓口負担2割が加わる。経過措置として3年間は増額の上限を3千円に抑えられとされるが、あとの負担は町にとっても重い■「人生100年代」平均寿命が延びたからといって健康寿命も一緒に延びていることでもなく、75歳以上の大部分の人が医療や介護と付き合うことになる■当施設利用者の平均年齢は87・5歳、うち要介護5の方が半分を占める。「早く迎えに来て欲しい」とおっしゃる方がいる一方で、寝たきりを苦にせず過ごしている方もおられる。ある調査によると、自らを律し決まり事をしっかり守って暮らしてきた方や、コミュニケーションをとることを苦にせず人の輪に入ることができ、方が100歳長寿者の傾向という■9月は高齢者を敬う月。家族や利用者同士、加えて職員とのつながりの中で、動けなければ動けないという楽しみ方や生きる喜びを感じて暮らしていただけたらと願う。



避難訓練を実施

年に2回実施している避難訓練、1回目は7月15日に「地震による土砂崩れが原因で火災が発生した」という想定で行なわれました。職員が各居室等を確認し、誘導を完了した居室の前にはタオルや枕を置いてお知らせ。慌てて転倒したりしないよう「ゆっくり急いで」避難し、約10分で施設南側の広場に利用者、職員全員が避難しました。実際の災害発生時に落ち着いて避難することは難しいでしょうが、定期的な訓練が重要であることは言うまでもありません。次回の訓練は10月、夜間の災害発生を想定して実施する予定です。



消防署員の講評を聞く利用者

西和賀さわうち病院との連携で暮らしに安心を

ぶなの園入所者の皆さんの暮らしを医療の面で強力にサポートしていただいているのが町立西和賀さわうち病院（以下、「病院」と表記）です。嘱託医及び協力医療機関の契約を取り交わしており、全入所者の健康状態を把握したうえで、個々に適切な医療サービスを提供していただいております。病院との連携は入所者は勿論、ご家族や職員にとって「安心」を確保する重要なつながりであり、ここではその支援体制の一部をご紹介させていただきます。



医師による回診の様子

【回診】

週1回医師と看護職員がぶなの園に来園し、入所者の健康状態を確認しています。週によって診ていただく居室エリアを決めており、入所者全員が月1回は診察を受けられることとなります。必要に応じてぶなの園看護職員が処置や健康管理上の指示を受け対応しており、皆さんが笑顔で過ごしていくための最も重要で基本となる医療連携です。

【訪問歯科診療】

月2回、歯科医と歯科衛生士が来園し、口腔衛生の管理をしていただいています。1回あたり8名くらいの入所者を診察していただき、ぶなの園での治療が難しい場合は歯科外来受診となります。咀嚼や嚥下の機能は心身の健康保持に大きく関わるため、この支援体制も非常に貴重と言えます。



医務室での訪問歯科診療

【通院、入退院】

急な体調変化や介護事故による受傷等があった場合には、電話連絡によりあらかじめ状況を伝えたくて病院を受診しており、そのまま入院となる場合の流れもスムーズです。退院の際の情報伝達も適切に行なわれています。

【ワクチン接種】

基本的には病院に出向いて接種する新型コロナウイルスやインフルエンザワクチンですが、医師等に来園いただいて接種することができます。入所者だけでなく職員の負担軽減にもつながる支援の一つです。

【看取りケア】

ご本人やご家族の意思により病院ではなくぶなの園で最期を迎える方も多くなっています。看取りケア計画策定や、息を引き取られた後の死亡診断についてもご配慮をいただいております。その人らしい人生の締めくくりができるようご支援いただいております。



施設と病院のスタッフで連携会議

8月30日には病院側と施設側の関係職種が集まって「連携会議」を開催し、医療連携の現状確認や今後の課題などを話し合いました。解決困難な課題はまだありますが、医師や看護スタッフ、その他関係職員のご理解とご協力により、入所者に寄り添った新たな支援の流れができつつある部分もあります。今後一層の連携強化が図られるよう、職員一同努めてまいります。

あたたかい善意を頂戴し厚くお礼申しあげます

令和4年7月1日～8月31日

【ご寄付】

- ・門脇 ミヨ 様
- ・石井 和子 様
- ・佐々木雪恵 様
- ・藤田 重信 様

【ボランティア等】

- ・太田地区婦人会様



入所されている藤田久美さんのご自宅は横手市雄物川町。そこで農業を営んでいる息子さんご夫婦から、毎年立派なスイカを頂戴しております。今年も数えきれないほどのスイカを軽トラックに積んで届けてくださいました。四等分に切り分けて並べるとまさに夏を感じる色彩と香り。数が数だけに圧巻の光景でした。



果汁たっぷりで夏の香り漂う

あしあと

【7月】

- 5日 出張理容
- 7日 参院選不在者投票
七夕ランチ
- 8日 法人苦情解決委員会
- 11日 高橋ナツさん百歳を祝う会
ホーム喫茶
- 12日 コロナ対策本部会議
- 13日 在宅第三者委員現場視察
(15日まで)
- 14日 総合避難訓練
- 21日 かたくり防災訓練
- 25日 出張理容
- 26日 コロナ対策本部会議
- 29日 法人内部監査

法人の主な動き

【8月】

- 5日 ぶなの園夏祭り
- 9日 理事会
- 13日 コロナ対策本部会議
- 13日 お盆メニュー
- 19日 かたくり納涼大会
- 20日 かたくり納涼大会
- 25日 特養第三者委員現場視察
- 26日 コロナ対策本部会議
- 30日 西和賀さわうち病院連携会議

看護職員 介護職員 調理員

勤務時間、勤務日数等は
多様な選択肢がございます。
明るく働きがいのある
職場です！
まずはお気軽にご連絡を！

職員募集

【問合せ先】

やすらぎ会総務課 ☎85-2322

編集後記

8月は雨や曇りの日が多く、今年
は夏が来なかつたという印象。お盆
のお墓参りや迎え火は晴れの夏空が
前提、勝手にそう思っています。楽
しみに買い込んだ花火が残っている
ご家庭もあるのでは。夏の余韻が感
じられ、それはそれでいいかも。。

やすらぎ会広報委員会

- 中堰 香
- 藤原江利子
- 高橋知英子
- 石川 大地
- 高橋 渉

- 特別養護老人ホーム ぶなの園
- デイサービスセンター ぶなの園
- ホームヘルプステーション ぶなの園
- 西和賀介護相談室
西和賀町沢内字太田2地割135番地
電話0197-85-2322 FAX0197-85-2317
E-mail bunanosono@swc-yasuragakai.or.jp
- 高齢者生活福祉センターかたくりの園
西和賀町沢内字大野17地割140番地1
電話0197-85-3388 FAX0197-85-3389

【発行・編集】社会福祉法人やすらぎ会 広報委員会